

第1回新処分場併設環境学習施設基本計画検討委員会における 委員からの主な意見について

1 委員会の概要

- (1) 日 時 令和4年8月19日(金) 14時30分～16時頃
- (2) 議 事 ①新処分場併設環境学習施設基本計画案の作成について
②新産業廃棄物最終処分場基本計画(令和4年4月策定)について
③新処分場併設環境学習施設基本計画案の検討項目について
④第1回検討委員会における検討項目について
⑤その他
- (3) 会 場 エコフロンティアかさま(笠間市福田165番1)

2 主な意見

各委員からの主な意見は次のとおり。

〔阿部委員長〕

- SDGs(持続可能な開発目標)の視点で持続可能な社会づくりを目指すうえでは、全世代が関わっていくことが重要。世代間の連携により、どう地域を持続可能にするのかをお互いに知恵を出し合いながら協力していくことが本施設で生み出されると良い。
- 施設運営だけでなく、本施設を含めた市内の様々な施設をつないで、その中で生物多様性の保全や脱炭素などのアクションを起こしている方々が関わり合って活動できるという場面が担保できると良いと思う。

〔吉田委員〕

- 新処分場施設自体が持続可能な状態にするべきだと思うことから、新しい環境学習施設のプレーヤーを含めた議論をしていくべき。まちづくりをしていく上では誰のために建設し、誰が運営するのかを明確に決めた上で計画を進めていくので、是非しっかりと議論したいと思う。

〔岡委員〕

- 新しい環境学習施設を整備するにあたって、今まで以上に来訪者を増やす仕組みづくりが必要だと考える。例として、日立シビックセンターへ市内小学4年生が課外学習として来ている。こういったシステムチックな計画立て、小学校のカリキュラムに組み込むなど、目標を立てていくことが必要だと考える。

〔菊野委員〕

- (学習テーマに「地球温暖化への対応」とあるが、)地球温暖化は様々な場面で議論されており、非常に懐が深いテーマだと思うので、中学・高校生層も学校授業の一環として利用するイメージも必要ではないか。

〔七井委員〕

- 施設の名称や愛称を地域住民や子供たちのアイデアを生かせるように募集や検討をして頂きたい。
- 環境都市宣言にふさわしく、尚且つ循環型社会の形成と地域の発展につながるよう、資源循環や脱炭素に関する研究機能を備えるとともに、環境学習施設を中心拠点（コア）として、日立市全体を博物館とみなすエコミュージアムとして捉えて整備してほしい。
- 日立市内には2つの大学があり、大学と市との間で連携協定を締結し、連携して地域課題の解決に取り組んでいることから、大学との連携も検討してもらいたい。

〔大内委員〕

- 周辺の自然や生物の展示や自然観察会を定期的開催し、学習できるようにしてほしい。地域の環境団体と協力して観察会等や展示についても検討していただきたい。

〔松崎委員〕

- 展示等のハード面のメインターゲットはこれからの環境を支えていく子どもたちにするにしても、それ以外の施設運営等のソフト面で魅力を付加し、人を集めることは十分に可能かと思う。展示等による環境学習をベースに持ちつつ、その他に付加する機能の中で他のターゲット層を戦略的に取り込んでいく体制づくりが行えれば良い。

〔田辺委員（代理：中川指導主事）〕

- 環境学習のコンテンツを作るうえで、わかりやすいものを作る必要があると思うので、楽しみながら学び、実感を伴って学習できるものが良い。

〔橋本委員〕

- （新処分場の供用期間が有限であるため、）事業団では基本的に限られた期間での運営になる。日立市に整備する施設では、他施設との連携や日立市や地域のNPOやボランティアと連携していかないと長期的には施設を保てないため、施設同士の連携と人の連携を併せて考えていただきたい。